

(1) 研究課題名 *Child restraint seat use and the psychosocial factors influencing behaviour*

栄養学科 小笠原メリッサ

背景

2000年4月、6歳以下の幼児が車内でチャイルドシートを装着することが日本で法律化されたが、2016年の国内のCRS着用率はわずか64.2%であった。6歳以下の子どもの内、交通事故で死亡、もしくはケガをした幼児の71%は主に自家用車で移動中に事故に巻き込まれている。既存の研究やデータによると、車の事故による死亡率、またはケガのリスクや程度はチャイルドシートの使用により大幅に減少することがわかっているが、日本ではチャイルドシートの着用を増加させるための効果的な教育法について行われた研究は、未だ存在していない。

研究内容

今後のプログラム開発の一助となることを目的に、海外で発表されたチャイルドシート着用を増加させるための教育法について触れた文献を調査し、それら方法について研究を行った。現在明らかになっているエビデンスによると、行動の変化を促すためには多面的なコミュニティ活動が最も有効である。日本におけるチャイルドシートの低い着用率を受け、日本国内の研究者は本研究を参考に幼児のためのチャイルドシート着用増加を目的とした効果的な教育法を樹立し、また、それら介入法の実際の効果について評価を進めるべきである。